

今日、1 学期の終業式を迎えました。4 月以来、3 か月が経過しました。皆さん、それぞれ、いろいろなことがあったと思います。今日は感情についてお話しをしたいと思います。

感情を表す言葉に「喜怒哀楽」という四字熟語がありますが、喜ばしいことは、人に語ることもでき、「喜」が多かった人は本当によかったと思います。平凡なように思える日常にも感動体験がいくつもあったことと思います。小さな幸福に気づくことができれば、喜びもまた多くなると思います。

「怒り」は誰しも感じるもので、ある意味次の行動へのエネルギーにもなったりします。あながち、否定されるばかりの感情ではありません。しかし、「怒り」はコントロールをするのにこしたことはありません。古代の哲学者、数学者であるピタ

ゴラスは「怒りは無謀をもって始まり、後悔をもって終わる」と述べています。誰かに怒りをぶつけ、あるいは八つ当たりをし、怒りが収まった後に大いに後悔した経験は皆さんにもあるのではないのでしょうか。

「怒りは無謀をもって始まり、後悔をもって終わる」蓋し、名言であります。

「哀」は悲しみです。悲しいことは、これまた、ないにこしたことはありません。うれしいこと、喜ばしいことが連続する方が幸せです。しかし、生きていくうえで悲しみを避けて通ることはできません。落語の名人である古今亭志ん生さんが「ものごとというものは、うれしい前には、きまって心配事や悲しいことがあるのです。」と述べています。様々な人生を凝縮した落語の話から得た「哲学」「真実」だと思います。今、悲しみに暮れている人もいます。悲しみに向き合って、それを受け止め、

思い切り涙を流し、あなたを必ず救ってくれる、時の力を信じましょう。今の悲しみの後には、やがてうれしいことが訪れます。必ず笑顔を取り戻すことができます。時の力は、誰にも等しく与えられるものだからです。

「楽」は楽しいという感情です。人生は楽しいのが一番です。「できること」が増えるより、「楽しめること」が増えるのが、いい人生だと、（斎藤茂吉の息子で精神科医でもある）斎藤茂太さんは言っています。

「ものごとを楽しむのは高度な感性なしにはできない精神活動である。日本人は、濡れてうっとうしいこともある雨を、例えば、春雨、五月雨、夕立、時雨、氷雨と様々に形容して楽しみ、いとおしみ、自分の心情を託してきた。」と言っています。「あらゆることに楽しみを見つけることは、人間だけに許された醍醐味だ」とも言っていま

す。

皆さんにとって、忙しい夏休みでしょう。3年生は進路実現のための勉強が大変になってくる時期です。1・2年生は、暑さの中、部活動に中心になって取り組まなければならない一月です。苦しい勉強や部活動を工夫して、楽しみに変えてみましょう。一人じゃない、友達も頑張っているからと思えたら、辛さは半減されるかもしれません。将来の夢に向かっての苦労なら楽しいと思えるかもしれません。

苦しいことの後には友達としゃべって、かき氷を食べるひとはきっと「楽しい」と感じるに違いありません。

今日は「喜怒哀楽」についてお話しをしましたが、最後にもう一つ。今日この終業式に来ている自分を褒めてやっていただきたいと思います。7限があり、模試があり、部活があり、課題研究があり、小テス

トがあり、朝練をし、補習がありと、何かと忙しい中、ハードスケジュールをこなしてここにいる。それは、たいへん素晴らしいことだと思います。通知表や模試の結果に一喜一憂することなかれ。皆さんは、この南高メニューをこなしていれば必ず結果が出ます。自分にとって一番ふさわしいところに道が開けていきます。皆さんの一学期の頑張りに敬意を表しまして終業式の式辞とします。